

大和証券グループのFintertech(フィンターテック)、東京都千代田区はITと金融が融合したフィンテックのビジネス化を狙う。一つの「KASSA I(カッサイ)」はウェブサイトを通じてファンが直接、相手に応援の気持ちを「投げ銭」で伝え、受け取った側は返礼品などを送る。武田誠社長(54)にこの事業の意義を聞いた。【聞き手・沢田石洋史、撮影・松田嘉徳】

# 投げ銭で心をつなぐ

## 最前線

インタビュー



Fintertech(フィンターテック)

**武田誠** 社長

たけだ・まこと 1967年生まれ。89年電気通信大卒後、大和証券入社。証券仲介・投資運用業での新規事業立ち上げや、マーケティングオンライントレードの企画・運営に携わる。2018年4月から現職。

◆新しい切り口のフィンテックをビジネスしていくのが役割で、2018年4月の設立です。ブラックチェーンなど最先端技術の調査・研究も行っています。事業化の第1弾が20年3月開始の「デジタルアセット担保ローン」。暗号資産(仮想通貨)のビットコインを担保とした融資を手掛けています。

——KASSA Iとは。

◆事業化第2弾です。20年11月から一般受け付けを始めました。ファンの「応援したい」という気持ちが、応援される側に投げ銭という形で届く仕組みです。まず、アーティストプロジェクトオーナーのサイトにKASSA Iの機能を導入します。オーナー

は投げ銭の額に応じて返礼品などをサイト内で示します。例えば、ミュージシャンが数量限定の音源を送ったり、サイン入りの直筆メッセージをプレゼントしたりします。

——「コロナ禍で考案?」  
◆いいえ。第1号は19年に手掛けました。ファンがアーティストやスポーツ選手を支援したいと思って、その方法はグッズを買うなど限定的です。しかも、そのお金はまづメーカーや所属チームなどに渡る。ファンとアーティストをつなぐ直接金融の新しい形を提供するにはどうするか。実験を続けながらシステムを改善してきました。そこへ、コロナ禍が重なり、時代とともにマッチングした。ファンとのコミュニケーションを図る補助ツールとして活用してもうきつかけを待っている。KASSA Iは、応援する側とされる側の「感謝の気持ち」がお金に乗って動き出す世界

11日に群馬県高崎市で第1局が始まる第76期本因坊戦のサイトにもKASSA Iが導入されます。本因坊戦は7カ所の地方会場で開かれ、それオンラインで開催したケースでは、投げ銭をした支援者に、地酒や缶詰などの特産品を送ります。中止された夏祭りを

11日に群馬県高崎市で第1局が始まる第76期本因坊戦の

サイトにもKASSA Iが導入されます。本因坊戦は7カ

所の地方会場で開かれ、それ

オンラインで開催したケース

では、投げ銭をした支援者に、

地酒や缶詰などの特産品を送ります。中止された夏祭りを

11日に群馬県高崎市で第1局が始まる第76期本因坊戦のサイトにもKASSA Iが導入されます。本因坊戦は7カ所の地方会場で開かれ、それオンラインで開催したケースでは、投げ銭をした支援者に、地酒や缶詰などの特産品を送ります。中止された夏祭りを